

関東伯友会・第15代生徒会主催

第5回東京研修旅行報告書

(2019/7/15～7/17 実施)



目次

1. 日程表・お世話になった先輩方 P.2
2. 引率 森本吉紀 P.3
3. 高 2(78 期)感想 P.4
片山翔太 小林幹功 神代大志 中井康太 野原巧都 福田康晟 町田一真
4. 高 1(79 期)感想 P.12
牛島直輝 小沢雅之介 川瀉直輝 川本浩聖 公文大輔 幸田真慶 近藤明彦
島悠人 西尾恒輝 藤原尚哉 二葉颯太 水田雄己 村山健人



新大阪の千成ひょうたんの前に集合

☆ 日程

7/15(月) 集合 7:40 ⇒ 新大阪駅発 8:10 ⇒ 新横浜着 10:25 ⇒ 慶応大学・学食 11:00
⇒ 東京大学 14:00 ⇒ 上智大学・歓迎会 17:10 ⇒ ホテル 21:00

7/16(火) ホテル 8:30 ⇒ 住友商事・社食 10:00 ⇒ 皇居・丸の内散策
⇒ 西村あさひ法律事務所 13:30 ⇒ FINOLAB 15:15 ⇒ レセプション 18:00
⇒ ホテル 21:00

7/17(水) ホテル 8:30 ⇒ 明治安田生命・社食 9:30 ⇒ ANA 整備センター13:30
⇒ 品川発 17:07 ⇒ 新大阪着 19:33 解散

☆ お世話になった OB の方々

訪問先	受け入れ担当 OB(在籍期) (敬称略)
慶應義塾大学	牛島(76期) 足立(76期) 豊田(72期)
東京大学	五百旗頭(49期)
上智大学	津久井(76期)
住友商事	水原(52期) 鈴木(34期) 山中(55期) 荒木(71期) 岩淵(71期) 木村(71期)
西村あさひ法律事務所	藤本(41期)
FINOLAB	佐野(52期) 来田(52期)
明治安田生命	久保(52期) 山本(50期) 易(61期)
ANA 整備センター	井本(51期) 山本(45期)
歓迎会	幹事：三宅(52期) 高島(52期)
レセプション	幹事：川原(50期) 伯友会関東支部の理事・幹事の方々

「東京研修に同行して」 森本吉紀



伯友会関東支部の全面支援のもと行われてきた東京研修も今回で5回目を迎えました。今回初めて担当となり、何かトラブルが起きないかと心配しておりましたが、50期川原さん、52期来田さん、水原さんをはじめとしたOBの方々の入念な準備と、生徒たちの規律正しい行動のおかげで、充実した研修を行うことができました。

今年度の東京研修応募者は過去最多の47名（高二19名、高一28名）となり、私の方で抽選を行いました。生徒たちの進路に関する意識の高さと、大学受験に向けてモチベーションを高めたいという気持ちから、例年以上の応募になったと思います。そのため第1回東京研修の参加定員は13名でしたが、今回はOBの方々に無理を言って20名に増やしていただきました。

今回、OBの方々とはメールのやりとりや、伯友会総会での顔合わせを通して、準備を進めて参りました。その中で、切符の手配で旅行業者とお話をする機会があったのですが、「他の学校さんもこのようなOB訪問をしたいと仰っているのですが、なかなかそういうOBがいなくて実現できない、というのが現状です。六甲さんはとてもすばらしいOBの方々がいて、さすがですね。」と言われました。六甲がいかにOBに恵まれ、支えられているかを感じた瞬間でした。

今回見学させていただいた慶応義塾大学、東京大学、上智大学、住友商事、西村あさひ法律事務所、FINOLAB、明治安田生命、ANA整備センター（訪問順）では、各OBの方々から熱いメッセージをいただきました。大学生が行き交う中を歳の近い先輩に和やかに案内してもらったり、49期五百旗頭教授から研究生生活や大学受験について、示唆に富んだお話をさせていただいたり、生徒たちはぜいたくな時間を過ごしました。各企業では会社紹介にとどまらず、グループに分かれて直接OBの方々と対話したり、チームに分かれ企画を考えたり、ドラマの撮影に使用されたオフィスでお話を伺ったり、Jリーグ体操をしたり、本物の機体を間近で見たり、工夫をこらした特別待遇の見学会を準備していただきました。生徒たちも最前線で働く先輩方に、仕事の内容、就職したきっかけ、英語の重要性、受験勉強の思い出、など知りたいことを遠慮なく質問していました。OBの方々からは口々に「自分たちの頃にはこんな機会はなくてうらやましい。」と言っていただきました。様々な場面でOBの方々が生徒たちに優しく語りかけてくださっていたのが印象的でした。

そして、日本工業クラブで行われた歓迎会では、山岳部OBで支部長の塩村さんから、「山登りと一緒に、あせらずに一歩ずつ目の前のやるべきことをこなしていきましょう。先のことを考えすぎて不安になったり、何も手が付かなくなったりしてはいけませんよ。まずは一歩ずつですよ。」と、後輩を思いやるあたたかいメッセージを頂きました。

今回参加した生徒たちが、この研修会を経て自分の目標を見つけ、将来大いに活躍し、そしていつの日か後輩たちのことを気にかけてくれる懐の深いOBに成長してくれることを願っています。今回出会った先輩方は、生徒たちにとって大きな目標になったと思います。お忙しい中、関わって下さった各OBの方々に改めて心より御礼申し上げます。



東京研修は沢山のプログラムが組まれていて、社会をあまり知らない僕にとっては有意義で意味のあるものばかりでした。具体的には、東京大学や東京の有名私立大学の見学や先輩方との交流、先輩方のしている仕事の概要の説明などです。大学見学では現地に行かないと分からないようなキャンパスライフの説明やキャンパスの説明などを細かく説明してくださり、とても有意義でした。

そんな中で僕が東京研修を通して大きく変化したところがあります。それは仕事に対する考え方です。僕の考え方が変化させた要因は2つあります。1つ目は先輩との交流する時間のときに、僕は将来できれば仕事をしたくないということを先輩に話していました。そのとき先輩がみんな目標を持ちながら仕事をしているから仕事は案外楽しいものだということを話してくれました。そして仕事に目標を持たず楽しめなくなったら辞めるというのも一つの選択肢ということを言うてくれました。しかしただ仕事が嫌だから辞めるのではなく、次にやりたいことや目標を見つけたから辞めるというのが最善だということも言うてくれました。僕は仕事に一度就いたら定年になるまでは辞めないほうがよいということをかされてきたので、先輩の仕事に対する考え方を聞いて感銘を受けました。このことで僕は将来の仕事に対しての不安が少し軽減されました。

2つ目はどの先輩の職場を訪問しても全員何かしらの目標を持って楽しそうに、やる気に満ち溢れているように見えました。僕は以前までは仕事はただお金を稼ぐための道具だと思っていたのですが、そのような姿を見て、そうではなく人生を豊かに、楽しくするものだと思うようになりました。僕は東京研修で考え方が変化したり様々な貴重な体験をさせてもらったりしました。このような機会を設けてくださった先輩方、先生には感謝しかないです。後輩のために時間を割いていただきありがとうございました。



日吉図書館前の福澤諭吉像の前で先輩と一緒に記念撮影



はじめに

僕がこの東京研修に行こうと思ったのは、将来像をより具体的に描きたかったということと、勉強のモチベーションを上げようという思いからでした。はじめに言っておきますが、正直めっちゃ疲れます(笑)ですが、絶対行って損はありません。今回お話を伺った先輩方はとても気さくで面白い方々ばかりで、その仕事を実際に行っていないと分からないようなお話をしてくださいました。その話をこの研修の過程を踏まえて書かせていただきます。

1日目

1日目は大学を回るという日で、まずは大阪駅に集合し、新幹線にのり、横浜駅まで行きました。最初に慶應義塾大学の見学をしました。そこでは3人の先輩方に案内をして頂きました。慶應義塾大学はとても綺麗な建物もある一方で、歴史あるような趣のある建物もあり、とても興味深い話を聞くことが出来ました。その後電車ですていとう大学へ行きました。そこでは五百旗頭薫教授に案内をして頂きました。五百旗頭教授には安田講堂や、赤門などの有名な東大の名所を案内して頂いたあと、学生時代や教授になった現在の話聞くことが出来ました。受験勉強の乗り越え方や、将来的な英語の重要性など、これから役立つであろう話をしてくれました。そのあと六甲学院の姉妹校である上智大学へ行きました。そこでも今年進学したばかりの先輩に案内をして頂きました。上智大学は全般的に建物が綺麗で、留学生がほかの大学より多くグローバルな印象を受けました。また、そこでは2日目、3日目と伺わせていただく企業に勤められている先輩方に歓迎会を開いていただきました。そこでは美味しいご飯を頂き、匿名可能の質問大会をしてとても楽しい時間を過ごしました。そして、解散してホテルで宿泊したのですが、そのホテルには外国の方がスマブラをしており、六甲生みんなで交流戦をしました。思いがけない体験ができたと同時に、自分の英語力のなさを痛感しました(笑)

2日目

その日はまず朝に自由行動があったので、東京駅らへんのオシャレなカフェにむき苦しい六甲生でたむろしたあとに、住友商事株式会社を見学させていただきました。住友商事の建物はとても綺麗で、特に食堂はとても広々としており、なんと会計は全てキャッシュレスで、私たちはそのすべを持っておらず東京の最先端に惨敗しました。そこでは先輩方4人にお話を伺いました。しんどいときはしんどいことを選ぶと、自分に大きな力がつくということや、様々な趣味を持つことが大切であることを教えて頂きました。そのあと、西村あさひ法律事務所へ行きました。そこでは後でもお話しますが、OBであり弁護士の藤本さんにお話を伺いました。さすが弁護士と言うほど藤本さんはお話がうまく、弁護士とはなにか、弁護士になるために必要なことなどを教えて頂きました。そのあと、FINOLABというOBの方が起業に携わった、お金のアプリなどを開発する会社を見学させていただきました。そこでは、これから起業しようとしている方々が集う自由なオフィスや、様々な会議室を見学しました。そしてその後、3つの班にわかれて、キャッシュレス決済と現金決済のメリットとデメリットを話し合う機会をもうけていただきました。それぞれの班で出た結論は違い、とても面白い議論でした。そしてそのあと、伯友会による歓迎会を開いていただきました。そこでは1日目に案内していただいた現役大学生の先輩からなんと11期の先輩の方も来て頂き、昔の六甲の話や、現役六甲生からの質問に答えていただきました。特に印象に残っているのは今六甲で教鞭をとっている先生方の生徒時代の話で、意外な話も聞くことができとても面白か

ったです僕はその時、先程話した藤本さんと同じテーブルだったのですが、とても面白い話をしていたいたり、場を盛り上げて頂いたりと、とても印象に残っています。先輩は弁護士という仕事はとても楽しいとおっしゃっており、弁護士という仕事にすごく興味が湧きました。

3日目

この日は最終日で、最初に明治安田生命へ見学をさせていただきました。そこでは OB の先輩方にオフィスや食堂の案内や、保険の大切さや、相互扶助の精神について教えて頂きました。その後、羽田空港近くの NASA の航空設備場を見学させていただきました。いつも乗る飛行機をこんなに間近で見たことは今までなく、さらにエンジンの大きさについてや、飛行機についているセンサーの種類など、すごく専門的な知識まで細かく教えて頂き、とても航空というものに興味が湧きました。そして、その後に東京駅でお土産を買い、新幹線に乗り、大阪駅で解散しました。

この研修を通して

僕は今まで、進路を自ら調べて決めるというようなことがした事がなかったのですが、今回の研修は将来を決めるのにはとても有益なものになりました。また、話したことの無い後輩との交流も増え、楽しかったです。来年も東京研修はあると思います。高三も行けたら行きたいほど楽しかったです(笑)みなさんも日本の最先端の都市を友達と後輩と先輩と見に行ってみてはいかがでしょうか！



49期五百旗頭教授による安田講堂の説明。
裏にも回り、コンビニがあるのに驚きました。



1日目

慶應大学では学部別で先輩方がキャンパス内を案内してくれました。教室などの設備などの説明もしてくれました。慶應大学の食堂でお昼をいただきました。上智大学では先輩が教室などの他に食堂、図書館、実際の授業風景も見せてもらいました。東京大学では五百旗頭教授が東京大学の歴史などを主に設備、立地などを説明して頂き、その後先生に自分達が行き詰まっている高校生の疑問、質問などについて答えてくれる場を設けて貰いたくさん質問させて頂きました。歓迎会ではOBの方と一緒に沢山のご飯をいただきながら面白い話を聞かせて貰いました。レクリエーションなども興味深いながらも面白くして貰いました。ホテルでは外国人の方とお話ししたりお遊戯をしたりしました。

2日目

住友商事さんの会社に行き、OBの話を聞きました。OBの年齢層が幅広くいろんなアドバイスをもらえました。そこでランチも美味しくいただきました。FINOLABさんにお邪魔しました。会社を起こす手伝いをしているところでした。設備や交流の場をしっかりと設けており、いい環境でした。実際に起業シミュレーションみたいな形も取らせていただき楽しく学べました。西村あさひ法律事務所さんにお邪魔しました。弁護士の種類をしっかりと知らず、自分が思っている弁護士だけじゃないと無知を知らされたと同時に弁護士が世界を跨いでいるという実感がしてとても面白かったです。レセプションでは美味しいご飯を頂きながら先輩の話を聞きました。前に立って質問するという面白い企画もして貰いました。いきなりで全然いい質問が出てきませんでした。しかし他の人の質問と答えで面白いものがありました。最後の目の前の事を精一杯やるという言葉に胸を打たれました。この日もホテルにいた外国人の人と国際的なプラスチックの問題や日本のいいところや悪いところを語り合いました。

3日目

明治安田生命さんでは僕らには遠い存在だと思っていましたが実際には色んな仕事があるんだと驚かされました。ANAさんでは実際に飛行機と整備工場を見させて貰いました。

とてもデカく同じように見える機体でもそれぞれ違う機能があったりするなど非日常に触れることができました。

最後に、わざわざ僕らの為に時間を取って見学の手配をしてくださったOBの方々はもちろん準備をしてくれたOB以外の方や先導してくれた森本先生には感謝でいっぱいです。ありがとうございました！



五百旗頭教授のお話はとっても分かりやすかったです



僕は東京研修に参加して他の学校では出来ない貴重な体験をしました。1日目は大学訪問でした。慶應義塾大学は校内がとても綺麗でパソコンなどの教育設備も充実していました。初めて大学を見学して、規模の大きさに驚きました。日吉キャンパス内を案内していただいた時、授業中の様子なども窓越しに見ることが出来ました。

次は東京大学を訪問しました。キャンパス内はとても広く、公園やたくさん樹木もあって落ち着いた趣がありました。教授の話では、自分の六甲時代のことや、大学に入って何をすべきかなどを教えてください、とても参考になりました。

最後は上智大学を訪問しました。まるで街の一角にいるような雰囲気が感じられました。食堂はキャンパス内に複数あり、メニューも豊富でした。特に僕が興味を持ったのは 100 円のモーニングセットです。お財布にも優しく、学生のことをよく考えてくれていると思いました。

そして夜は 13 号館で歓迎会が行われ、先輩方が夕食を用意してくださいました。質問コーナーでは学生時代になにをすべきかなどの真面目な質問から先輩方の身の上話まであり、とても楽しかったです。

2日目はまず、住友商事を訪問しました。本社ビルがとても高く、圧倒されました。中はまるでホテルのような美しさに驚きました。そして、その中で働いていらっしゃる先輩方から僕たちが普段目にするあらゆるものに商社は携わっていることを聞き、感銘を受けました。昼食は 26 階の社員食堂で頂きました。メニューも豊富で値段も安く、とても美味しかったです。

午後に訪問した西村あさひ法律事務所は日本最大の弁護士法律事務所、医療の世界で言うと、大学病院のようなものです。僕は理系選択者ですが、現在の日本経済のことや、これからの弁護士に求められること、そして英語の必要性などを聞いて法律にも興味を持ちました。

夕方は FINOLAB で先輩方から会社の案内や、お金に関するアプリについてディスカッションする場を設けていただいて、とても勉強になりました。

夕食は日本工業倶楽部で、先輩方と食事をしながら便番や中間体操などの六甲の伝統や、僕たちの将来などについてたくさんお話しが出来てとても有意義な時間になりました。この日本工業倶楽部は一部の優良企業の中のごく一部しか会員になれない特別な場所らしく、このようなところに入れていただいて、光栄に思いました。

3日目の朝に訪問した明治安田生命では、実際に仕事をしておられるオフィスにも入らせていただき、とても貴重な体験になりました。真剣な顔つきでデスクワークをしている大人はやはりカッコいいと思いました。

午後は ANA 整備センターを訪問しました。整備工場の中はとても大きく、飛行機が何機もあって迫力がありました。飛行機の部品の説明をして下さった整備士さんの目はとても輝いていて、好きなことを仕事にしている大人は素晴らしいと改めて感じました。そして、空の安全を守っているという誇りを感じました。

東京研修で立派に活躍されている先輩方のお話を聞いて、とても刺激になりました。将来を考えるのにはいい経験だと思うので是非参加してみてください。



今回東京研修に参加させてもらった野原です。僕はこの研修で体験したこと感じたことを書こうと思います。

一日目はまず慶応大学に行かせていただきました。僕は経済学部先輩に学校を案内してもらい、そこで自分の中であまり理解できていなかった学部について、理系から経済学部を受ける時に必要な教科などを聞きました。答えにくい質問だったかもしれないけれどとてもわかりやすく答えてくれて嬉しかったです。そのほかにもサークルの様子や授業の様子、休み時間にいく所なども教えてくれて楽しかったです。また慶応生の素行が悪い人が多少なりいるということを知って大学生らしいと思ったとともに大学生活を楽しんでいるなと思いました。

次に東京大学に行かせていただきました。ここでは五百旗頭先輩に案内してもらい質疑応答の時にはまじめなことからしょうもないことまで答えていただいて楽しかったです。また東大内を案内してもらっている時に普段の様子や建物の歴史、なぜ赤門が出来たのか、なぜ門や壁に模様などがあるのかなどの雑学も教えてくれて嬉しかったです。

最後に上智大学に行かさせていただきました。まず上智大学はほかの大学と雰囲気が違って大学と思えないくらい新しく高層ビルが立ち並んでいました。ここでは津久井先輩に案内してもらいました。先輩は自分がテスト前だというのに僕たちのために案内してくれていて尊敬しました。そこでわざわざ上智の学校について書いてあるものを持ってきて見せてもらいわかりやすかったです。校舎内は外見どおりとてもきれいでした。図書館も授業風景も見せていただいて嬉しかったです。食堂のメニューのことを聞いたときは皆のことを考えて作られていてすごいと思いました。

その日の夜は先輩たちが歓迎会を開いてくださいました。ここでは僕たちが先輩たちと話しやすいように気を使ってください、僕たちが書いた質問についても答えてくれました。まじめな質問がある中面白い質問もありました。先輩たちの六甲時代の様子も聞いて良かったです。

二日目最初は住友商事に行かさせていただきました。研修に行く前から商事がどういうものなのかは気になっていたもので、楽しみでした。会社はとてもきれいでしばらく唖然としていました。最初の先輩方のプレゼンがわかりやすく、商社が何をしているかなどがすぐにわかりました。質疑応答の時もわかりやすく僕たちの質問に答えてくれて嬉しかったです。

次に西村あさひ法律事務所に行かさせていただきました。弁護士になるためにしておいたほうがよい科目などを言って下さったので、あまり弁護士の道を考えていなかった僕でも楽しんで聞けました。そこで英語がしっかりしていると有利になれるとおっしゃっていたので英語をこれから頑張ろうと思いました。

次にFINOLABに行かさせていただきました。FINOLABでは新しいアプリを作ったりしている光景を見ました。みんなで案を出し合っってアプリを作っているということも聞いて良かったです。またそれらを体験させていただいたのは良い経験になりました。

レセプションでは先輩方が僕たちのしょうもない質問から真面目な質問までしっかり答えてくれてうれしかったです。ほかにも先輩方たちの体験談や仕事の話がその時に聞いて良かったです。

最終日、3日目は最初に明治安田生命に行かせていただきました。そこでは保険会社が実際にどんなことをしているのか、などをスクリーンを使って説明していただきわかりやすかったです。朝の仕事開始前のストレッチには驚きました。

最後に ANA の整備センターに行かせてもらいました。もともと飛行機が好きだったこともあって興味を持って聞かせていただきました。そして ANA に関するいろいろなことを聞かせていただいた後、実際に飛行機が整備されているところに行かせていただきました。普段実際、飛行機がどのように整備されているのか、飛行機の隅々にまである小さなセンサーが想像以上に重要であることなども教えていただきました。そのあとの質問させていただいた時に聞きたかったことも聞いて良かったです。

今回の東京研修で将来自分がどういうなりたいかが完全に分かったわけではないですが、研修に行く前の自分よりもなにかなりたいものが見えた気がしたのでよかったです。先輩方のしてくださった話を参考にこれから高校、大学、社会人となっていきたいと思います。

本当に今回の東京研修を用意していただきありがとうございました。



76期津久井先輩の上智ツアー



上智大学のミスコンテストに釘付けになる六甲生

78期 福田 康晟



今回の研修旅行では、様々なことを学ぶことができた。中でも印象に残ったものをいくつか書こうと思う。まずは二日目の、FINOLAB。FINOLABはスタートアップ企業のためのコワーキングスペースである。今では、成功しているFINOLABであるが、立ち上げた佐野さんによると、作った会社はFINOLABが初めてではないらしい。以前に作っていた会社は上手くいかず、大きな借金を負ってしまったらしい。佐野さん自身もおっしゃっていたが、かなり精神的に大変だったらしい。そんな中、また会社を立ち上げる勇気は、単純に凄いと思った。本人は、前回成功、失敗した経験を活かせるとおっしゃっていたが、普通及び腰になってしまうものだと思う。それでもめげずに努力する姿は非常に凄いと思った。

そして同じく二日目、住友商事にお邪魔させて頂いた。実際に働いているOBの方々に直接質問をさせて頂く時間があったのだが、色んな方が仲間と協力して仕事をするのは難しいとおっしゃっていた。それに、仕事のなかには、何年も、あるいは10年以上もかかるものもあり、成功の見通しが立たないものもあると言っていた。しかし、成功したら達成感があるし、感謝されることもあり、やりがいのある仕事だと言っていた。自分の将来は誰かに役に立つようなやりがいのある仕事につきたいと思った。他にも様々な大学や企業を見学させていただいたが、どこも興味深い話をしていただき、非常に貴重な体験になった。この体験を将来に少しでも役立てられればいいと思う。

78期 町田一真



3日間を通じた研修は、色々な大学や企業を訪ね、また、たくさんの先輩方の貴重なお話を聞くことができて、ためになるモノとなりました。研修1日目には、慶応義塾大学、東京大学、上智大学の3つの大学をOBの方に案内してもらいました。実際その場に行かなければ分からない大学内の雰囲気味わえ、また、大学に通っている先輩から、内側から見た大学の話も聞け、参考になりました。2日目と3日目は住友商事、西村あさひ法律事務所、FINOLAB、明治安田生命、ANAの5つの企業を訪問し、各々に勤めているOBの方に案内してもらいました。僕は正直、企業訪問の方にはあまり関心を持っていなかったのですが、多種多様な企業に行き、実際に働いている人を近くで見ることができ良かったです。また、夜の歓迎会では、OBの方の六甲時代の面白いお話もたくさん聞くことができました。高校2年の夏という将来の進路を決める大事な時期にこのような貴重な体験ができてとても良かったです。最後に、忙しい時間を割いて対応してくれた先輩方、本当にありがとうございました。



(はじめに)

私が東京研修に参加した理由はいくつかありますが、一番大きな理由として今現在自分の進路について非常に悩んでいるというのがあります。そのため、この研修に参加することによりどのような職業があり、どのような仕事をしているかを知ることによって、自らの進路選択の参考にさせていただこうと思いました。

(訪問先について)

初日は慶應、東京、上智大学に行きました。先輩方からの詳しい構内説明もあり非常に良かったです。特に印象に残っているのは、上智大学です。個人的な感想だが、キャンパス自体が他大学と比べ近代的であると感じた。また、図書館も非常に大きく蔵書数も多く驚いた。六甲生も学習センターを通じて借りることができるので、一度利用してみたい。

2日目、3日目はいくつかの企業に行きました。ここでは2社紹介したいと思います。まず、FINOLABについて。FINOLABには多くのスタートアップ企業が入っている。そのため、オフィス全体が活気にあふれており、非常に印象であった。また、その中からいずれ世界を圧倒する企業が生まれるかもしれないと考えると非常に楽しみです。

次に、ANAの整備工場について書きたいと思う。自分自身もとから飛行機がある程度好きだったので、非常に楽しみにしていた。整備工場の見学はなかなかできないので、先輩方には本当に感謝しかありません。実際行ってみると、やはりとても大きかった。最近デリバリーされたばかりだというB777からB787、整備訓練用のB737、AIRDOのB767といくつも機体が格納庫内にありとても見応えがありました。ですが、格納庫の中はやはり暑かったです。その中で、日々の安全運航のために作業されている整備士の方には頭が上がりません。これからも、航空会社を利用するときは運航乗務員や地上スタッフはもちろん縁の下の力持ちである整備士の方々にも感謝をして利用していきたいです。

この2社以外にもいくつか訪問させていただきましたが、どの企業も熱意をもって仕事をされておりとても素晴らしかったです。

(先輩方のつながり)

1日目の歓迎会や2日目のレセプションに参加して驚いたことがあります。それは、想像以上に先輩方の仲が良く、雰囲気や和気あいあいとしていたということです。大学生の先輩からすでに定年退職された先輩、中には中学で六甲をやめていった先輩まで皆さん親しそうにされていてうらやましいと思いました。また、その関係は私的な関係にとどまらず、ビジネスパートナーとしても関係を持っていると聞きすごいと思いました。私たちが六甲を卒業した後その輪の中に入ることができると思うとうれしいです。

(最後に)

実際参加させていただいて、先輩方は教授、弁護士、起業家、会社員…と多方面でご活躍されており、お話を聞かせていただく中で想像以上のものを得ることができました。現在されているお仕事の話だけでなく、学生時代の話、とくに進路選択についてもうかがうことができ、非常にありがたかったです。伺

った話も参考にさせていただきながら、後悔のないような進路選択をしていただきたいと思います。

最後になりますが、お忙しい中快く受け入れてくださった先輩方、引率してくださった森本先生をはじめお世話になった皆様本当にありがとうございます。



71期OBの3人は偶然住友商事に就職。さらに3人とも中1Cだったそうです。

79期 小澤雅之介



まずこの東京研修に行こうと思った理由について説明しようと思います。もう高1になってそろそろ大学について考えようと思い、さらには仕事のリアルさを体感したいと思い応募しました。

次に、1日目に見学させていただいた3つの大学ですがどの大学にも良さがあり、心惹かれるものがありました。その中でも自分がいいなと思った大学は慶応大学です。最初に見たということもあるかもしれませんが、とても自由そうで活気がありました。初めて大学を見ましたがとてもいい経験になりました。

そして、2日目には3つの会社に訪問させていただきました。まず住友商事では6人の六甲OBの方に会社の説明、質疑応答をしてもらいました。やはり一番印象に残ったのは社員食堂の大きさでした。次に訪問したのは、西村あさひ法律事務所です。そこでは法律のことについて詳しく説明してくれました。とてもためになりました。その次に訪問したのはFINOLABというところ。とてもアットホームン

な感じがしましたが、自分で起業して仕事をするということはとても重いことだと思い、すごいなと思いました。2日目の夜は、日本工業倶楽部というとても高そうなところで歓迎会をひらいてもらいました。とても風格のある店だったので緊張しました。

3日目には明治安田生命と ANA にいきました。明治安田生命では会社の説明や質疑応答を行いとてもためになりました。質疑応答の時にはあさひ法律事務所の易さんからとてもためになる話を聞けて楽しかったです。ANA では、普段は目にしないような、飛行機を作っている現場を見させていただき、とても貴重な体験をすることができました。

この東京研修を通じて志望大学を決めたり、どんな仕事に就くかを決めたりしたわけではないが、それらを決めるための糧となったと思っている。

最後に、自分も卒業したらこのように在校生たちに何かできるようにしようと思いました。



79 期 川瀨直輝

申し込みのときは、ただ友達と東京に行きたいのと東京大学などに一度行ってみたいという気軽な気持ちでいましたが、東京から帰ってきたときには最高の研修にできたという充実感に満たされていました。まず、初日は慶応義塾大学、東京大学、上智大学を訪れました。それぞれを OB の方々に紹介していただきたくさん刺激をいただきました。そのなかでも僕が強く印象に残っていることは2つあります。1つ目は上智大学の存在です。六甲が上智と強く関係があるのは知っていましたが、上智大学については何も知らなかったけど、上智大学の建物や上南戦、文系の学科が多く男子より女子のほうが多いという事などどんな大学なのか知ることが出来ました。

2つ目は伯友会の方々が主催してくださった歓迎会です。ここでは OB の方々と歓迎会を盛り上げながらコミュニケーションをとりました。質問したり質問されたりして今と昔の六甲の違いだけでなく進路や面白いエピソードを聞くことが出来てとてもいい時間を過ごせました。

2日目は住友商事、西村あさひ法律事務所、FINOLAB の3社を訪れ、夜はレセプションを開いていただきました。会社見学というのは一度もしたことがなかったのですが、実際の会社は想像と全く異なるものでした。住友商事では商社がどんなことをしているかという事について詳しく教えていただきました。また大きな社員食堂で昼食をとったときに会計がカードでの支払いだったのですが、PITAPA が使えず困っていた時に若い社員さんがずっと笑顔で払ってくれました。ただただ、かっこよかったです。

法律事務所では裁判のことなどはもちろんのこと世界を見据えた視野を持つ事や英語の必要性、理系からでも弁護士になれることなどを教わりました。FINOLAB では仕事場、仕事の内容、起業のメリットデメリット、ベンチャー企業についてなどを教わりました。またみんなでテーマを決めてより良い案を求め話し合いました。僕も起業には興味があったので為になる話を聞けて良かったです。

レセプションでは、歓迎会のおなじように OB の方にいろいろな話を聞かせていただきました。

なかには、初代校長の武宮先生を知っている方や山岳部に所属していた方、ハーバード大学に行った方や六甲を中退した方などもいらっしやって興味深かったです。

3日目は明治安田生命とANAを訪れました。明治安田生命は名前とcmぐらいしか知らなかったけど、会社を案内していただき、仕事の内容を詳しく教えていただきました。また、会社の広さに圧倒されました。ANAでは予備知識を教えてもらってから実際に飛行機を見せていただきました。本当に貴重な体験でした。

最後に今回の研修でただの観光では、また六甲以外では絶対味わえなかった貴重な経験をさせていただいて改めて六甲に入学できて良かったなと実感できました。先輩方がおっしゃっていた大切な事を忘れずこれからの六甲生活を充実させていきたいなと思いました。そして、いつの日か自分も先輩方の立場になれたらなと思いました。今回の東京研修を企画していただいた生徒会の方々、忙しいところ時間を割いて下さった伯友会とOBの方々、引率して下さった森本先生本当にありがとうございました。





私は、今年に高校生となり自分の将来のビジョン・今後の人生について考えるようになりました。その中で、今の自分でいいのだろうかという気持ちがありました。そんな中参加した東京研修は、未来への期待と不安で満いっぱい自分への貴重な刺激であったと思います。同時に参加させて頂いたことに感謝しています。

私がこの研修に参加して良かったこと・得られたものの中から3つを紹介します。

1つ目は、あらゆる面で日本の中心地である、「東京」を肌で感じられたことです。私は、家族や友人と東京に旅行したことはありましたが、巨大なオフィス街のビルに立ち入ったことはありませんでした。実際に通勤ラッシュ時の電車に乗り、社内食堂で食事をするなどする中で、研修でしか目にすることのできない社会の一面を見ることができました。

2つ目は、ベンチャー企業の FINOLAB を訪問した際に、みんなのアイデアを上手くまとめて新しいものを生み出すという工程を経験できたことです。私は、「お金に関する新しいアプリを考えよう」という体験コーナーで会議の進行役を務めて、いかに意見交換を活発にさせるか、より良いサービスを提供するかを試行錯誤したことで、その工程の楽しさと難しさを実感しました。この経験は、私達の今後の学校行事での成功や社会での活躍に生きるものだと思います。

最後に3つ目ですが、これは最も心に残っていることです。それは、各訪問先でお世話になったOBの先輩方全員が六甲学院への誇りと仕事への情熱を持って、常にチャレンジされていることです。訪問時の私達の質問へのご返答や伯友会の歓迎夕食会から、ひしひしと伝わってくるものがありました。また、六甲で学んだことは今でも多く残っているとおっしゃっていました。

このように刺激溢れる東京研修でしたが、何より六甲特有の学びや活動が将来必ず生きるものであり、目の前の六甲生活を精一杯送ることが大切なのだ気づかされました。価値ある東京研修を終えた私は、これからどのような道に進んでもポジティブに挑戦していく道を歩みます。





僕は7月15～17日に行われた東京研修に運良く当選し、参加してきました。

3日間で慶応義塾大学、東京大学、上智大学と住友商事、西村あさひ法律事務所、FINOLAB、明治安田生命、ANAに訪問させて頂きました。OBの方々の貴重なお話を沢山聞け、とても価値のある時間を過ごすことができました。ここでは、3日間で体験したことをできる限り鮮明に分かり易く記そうと思います。

1日目（慶応義塾大学、東京大学、上智大学）

午前中に新幹線で新横浜駅まで移動し、まず慶応義塾大学に向かいました。校舎が最寄り駅の目の前にあり、交通の便がとても良かったです。慶応義塾大学では、授業中の教室、部室、グラウンド、食堂を見学し、実際に食堂を利用して昼食を取りました。まず、食堂は麺類とご飯類があり、僕は麺類を選びました。（ほとんどの学生が麺類を選んでいて、賑わっていました。）

驚いたのがその値段設定で、天ぷらうどんとポテトとわらび餅で550円といういわゆるコスパ最強の食堂で非常に良かったです。教室がある建物は非常にきれいで近代的な感じがした一方、部室がある建物は言うならば古い高校の校舎という印象を受けました。僕は味があって好きな空間でしたが、好き嫌いが分かれるかもしれません。グラウンドの陸上のトラックは六甲の第2グラウンドを一回り大きくした位の広さでした。人が少なくてのびのび練習できそうだったので、陸上をやりたい人には嬉しい環境だと思います。学内には大学の創設者である福沢諭吉の銅像があったり、「慶応に先生は福沢諭吉しかいない」という話を聞いたりしました。また、実際に教室の前に貼られていた掲示では教授が「〇〇くん」と表記されており、福沢諭吉が作った学校であるという事が所々形として見えて面白かったです。

慶応義塾大学の見学が終わり、東京大学で大学院法学政治学研究科教授をされている五百旗頭教授の研究室を見せて頂きました。僕は高価な実験器具がたくさん並んでいる研究室をイメージしていましたが、実際は実験器具らしきものが見当たらず、大量の難しそうな本が並んでいる書庫のような部屋でした。また、東京大学では教授に何でも質問できるという夢のような時間が30分も設けられ、沢山の質問をすることができました。ここではその中から抜粋して特に自分の糧になりそうであったものや意外だったものをいくつか紹介します。

まず、大学で大切なのはどの教員に付いていくかだ、というものです。本当に良い研究をしても、時間が無い為にメディアなどで目に触れない先生もいるので、逆にそういう人のほうが良いかもしれない、というお話でした。また、大学受験に向けての勉強のやり方についてもお話ししてくれました。それは、なるべく早く楽しんでやること、大学受験は教科書からしか出ないので教科書を読むことで、それに加えて教科書を応用するために、こう書いてあるから論理的にこう、と自分で考えていくと、例えば歴史だったら時代を超えた繋がりが見えてくる。と話されていて、なるほどなぁと考えさせられました。

その後上智大学に移動し、教室、図書館、食堂を見学してもらいました。図書館は国内だけでなく外国の新聞が多数あり、面白かったです。食堂は3つ見学でき、その中の1つでは朝食が100円で食べられるというサービスがあり、大学生が朝食を取らずに授業に出るのを防止するのに良いサービスだと思います。1日目の夜は伯友会の方々に歓迎会を開いていただき、質問コーナーなどでかなり盛り上がりました。（かなり責めた内容の物がいくつかあったのは内緒です…笑）

2日目（住友商事，西村あさひ法律事務所，FINOLAB）

住友商事では，社食で昼食を取りました。僕は会社の食堂に入ったのがもちろん初めてで，想像よりはるかに広く品数がたくさんあるという印象を受けました。また，会社に関する説明を聞いた後で質疑応答の時間があり，どういう人を採用したいか，という質問に対して実際に面接官をされている方が「自分が大学までどういう事をやってきたかをどんな状況でもアピールできる人。第一印象も大事。」と返されており，非常にためになりました。OBの先輩で一人，マンションに関する部署に所属されている方がいらっしや，説明を聞いていてとても関心がわきそこに入りたいと思い，目標が見えた気がしました。

2つめの訪問先であった西村あさひ法律事務所で驚いたのが，600名もの弁護士が勤務しているという事です。弁護士は個人でやるものだと勝手に思っていたのでこのような大規模な会社に就職して働く選択肢があるのも意外でした。

また，FINOLABは新しいアプリの開発についてディスカッションする時間があり，僕達の世代は特に接点の多いアプリを開発するというの是一見難しそうに見えても面白かったです。会社の中に仕事に集中するための工夫が沢山あり，現地に行かないと分からない様な所まで発見できたのが自分にとっては大きな収穫でした。

3日目（明治安田生命，ANA整備センター）

まず，明治安田生命では「働く仲間との絆」，「地域社会との絆」，「お客様との絆」などの項目に分けてお話しいただき，絆を大切にしている協力的な会社だな，と思いました。

ANA整備センターでは飛行機を整備している現場な立ち入ることができ，飛行機の部品の説明を詳しくして頂いたので今までより飛行機が身近に感じられました。また，ANAなどの交通系の会社は理系というイメージが僕の中であったのですが，話を聞くと理系も文系も同じくらいいて，どっちが有利という事もないそうです。

まとめ

今回の東京研修では僕が応募した目的である，文理選択をする上での材料が十分得られ，具体的な大学，企業の中身まで高1の段階で見られたのはすごく良い経験になりました。

この経験を無駄にしないように頑張ろうと思います。

研修を企画してくださった伯友会や先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。





今回東京研修に行き、本当に良い体験をさせてもらった。中でも僕が一番印象に残っているのが東京大学大学院法学政治学研究科教授の五百簀頭薫（いおきべかおる）さんのお話だ

まず、五百簀頭さんは主に研究についてお話して下さった。また、そのお話もとても論理的かつ僕ら六甲生にもわかるように説明してくれた。そもそも研究とはどんなものかについて根本から教えて下さった。皆さんは研究と聞いてどのようなことを頭に浮かべますか？僕は、理系なら、ひたすら毎日顕微鏡をのぞいたり、文系なら、昔から今のあらゆる書物を読んで討論したりしていると思っていた。当然、そのような想像は偏見にしか過ぎず、実際は緻密に計算されたシステムから成り立つものだった。

研究とは実証と総合の二つによって構成されているものだった。具体的に、実証というものはどの資料が正しいか必要かを考える資料批判と、資料と資料の矛盾を照らし合わせ、背景に隠された政治情勢などを考える実証主義の二つの役割に分担されている。そして、二つ目の総合というものは、通説から応用的な論理的因果を考え、資料を作成したり、逆に他分野の資料から応用的な論理的因果を考えて、通説の十分性を見直したりするのだという。日々この資料批判と実証主義の二つを含む実証と総合にそって様々な研究を行っている、と教授はおっしゃっていた。

以上が教授の話で、最後に五百簀頭教授の話を含めたOBの方々の話を聞いて僕が思った事感じた事について書いて終わろうと思う。まずどのOBの方も口をそろえて言っていたのが、六甲での中高時代が無かったら今の自分はいなかったということだ。一つは、勉強。今は将来、社会に出て活躍するためにも勉学に精を入れるべきだと思った。また、大人になって中高時代の勉強のおかげで助かった場面が多々あったとおっしゃるOBの方もいた。だから、学校での勉強により真面目に取り組みつつ、他分野での知識を身につけていこうと思った。二つ目は今の六甲での友達を大切にすべきだと感じたことだ。どんなに大変な勉強も学校行事も共に頑張っ乗り越えてきた友達は、大人になっても掛け替えのない友達だということだ。そして、時には先生に怒られることも大切だということもおっしゃっていた。

最後に、僕の六甲生活は残り二年半、入学したのが昨日かのように感じるくらい早い四年だったと思う。しかし、この東京研修を通して友と学びあえる六甲で過ごす時間の尊さに気づくことができた。そして、この東京研修という刺激的で安心感を伴う交流を企画して下さい、高3の石山先輩、引率の森本吉紀先生、伯友会の卒業生の方々ののおかげで無事研修旅行を終えることができました。本当にありがとうございました。





～仕事への自信とプライド～

「自分の通っている学校生活に自信はあるか？」と聞かれたら、僕ははっきりと「はい！」とは言えない。大体の人は同じような経験があると思う。一方、OBの方たちは、それぞれ自分の会社や仕事に大きな自信を持っているように感じた。

2日目の午前「住友商事」を訪問した。正直、最初は住友商事が、どんな会社で、何をしているのか、を僕は全然知らなかった。結論から言ってしまうと、「何をするのかははっきり決まっていない会社」だった。違った言い方をすれば、「なんでもする会社」だった。街中を走る自動車、自分の住んでいる家、毎朝乗る電車、現代に必要不可欠な電力……。など色々な方面の事業に貢献している、そういう会社だった。

そして、住友商事に勤める六甲OBの方々は、自分たちの仕事を「社会の基盤を作る仕事」と表現された。まず、素直に、社会全体に貢献できる仕事を素敵だと思った。また、自分の仕事に大きな意味を感じて、プライドを持って働けることに強い憧れを感じた。

では、なぜそんなに自らの仕事に自信を持てるのだろうか。東京から帰ってきてこのレポートを書きながら、この質問をしなかったことに少し後悔している。しかし、その答えは明確だ。仕事を単なる「金儲け」として見ているのではなく、社会をより良くしていこうという姿勢で仕事をし、そこに実際に手ごたえややりがいを感じているからだろう。

2日目の午後、「FINOLAB」というベンチャー企業を訪問した。ITを金融に生かす方法を生み出すベンチャー企業だ。起業したOBの方によると、起業する以前に、「自分は～～～がしたい！」ということ、とにかく周りの色々な人に伝えるそう。そして自分に賛同してくれる人を見つける。そのOBの先輩はそうやって起業された。ベンチャー企業では「人を集めて」→「自分の思いを言葉にする」→「アイデアをふくらます」これがベンチャーの基本のようだ。

一見あまり難しくないように聞こえる。しかし、「自分は～～～がしたい！」ということ色々な人に伝え、賛同してくれる人を見つける。ということは言葉以上に大変であると思う。なぜなら、自分の思うこと、やりたいことを人に伝えても、なかなか賛同して貰えなかったり、時には厳しい意見をもらったりすることもあるだろうと思うからだ。それでも根気よく自分のやりたいことを、伝え続けることは「自分の考えていることはきっと社会に役立つ！」という強い自信があつてのことだと思ふ。

東京研修では全部で5つの企業を訪問させて頂いた。色々な仕事がある中で、それぞれ自分の仕事の意味、必要性を感じ、使命感あるいは責任感を持って、働かれているというのを肌で感じた。また、多くの企業で20ページ以上の冊子(西村あさひ法律事務所は約40ページも)を準備して頂き、自分たちに期待されていることを感じた。だから、僕も「社会に貢献できている！」と自信をもって強く言えるような仕事を将来したいと思った。



六甲学院七十九期島 悠人と申します。先日は伯友会関東支部の皆様、企業見学や、歓迎会、レセプションなどの場をご提供していただいたことを感謝しています。さて、僕は、東京研修に参加させて頂いて、人生の視野が広がったように思います。僕がそれぞれの場で、感じたことを書こうと思ったのですが、分量の関係で、東京研修全般に参加しての感じたことを書かせて頂きます。

初めに東京にいる先輩たちの視野が広いということです。毎日自宅から学校までの往復をしていると、僕の目に飛び込んでくる風景というのは、見慣れたもので、知的好奇心があまり湧いてこない。面白い授業で得る知識が唯一の知的好奇心が刺激されるだけで、退屈な毎日を暮らしていました。でも、東京に出たOBの皆様は、関西の仲間と別れ、一人で開拓されて苦しい時を経験されたと思います。だからこそ、厳しいビジネスの戦いを勝つ為に広い視野をお持ちでないのかと僕は感じました。



第二に六甲で繋がった絆はとても強いものなのだなと感じさせられました。今僕が六甲で築き上げている友情というのは、一生ものになるのか？それぞれ違う大学に行ったらこの友情や絆というのは消えてしまうのではないかと僕は心配でした。でも今回の先輩の姿を見て、それらの心配が消えて行きました。僕らのために何人もOBが集まってくださったり、伯友会の中で同じ会社の人がいたりしているのを見ていたら、六甲の絆が一生続くものなのだなと思います。また六甲の仲間は信頼できるので、なにか手伝いが必要な時にはHELPを求めることができることが、この長い歴史を持つ学校のいいことだと思います。

第三に人生どうにかなるといことです。支部長が言っていましたが、今を生きることが必要なのではないかと思います。将来、過去に縛られたら、楽しく生きることができなくなるのではないかと思います。たまには将来、過去のことを考えなければいけないと思いますが、考えすぎてストレスを感じるのはい意味がないと思います。

第四に六甲時代に学んだことが、大人になっても生かされていたことです。先輩の中には、高校に行けなかった人がいましたが、周りの人は変わらない態度で接していたことをみて、”Man for others with

others”のいうことばがない時から、六甲はこの精神を教育していたのではないかと思います。

第五に積極的な態度で接すると、教えてくれることが多くなるのではないかと思います。研修中僕は、積極的に質問をさせていただかせて、僕は悩んでいたことが解決したように思います。今僕はAIに興味がありますが、いずれ下火になると思います。今流行っている分野に進んで将来的に困らないかと悩んでいました。しかし、今好きなことをやるべきだというのが僕の回答です。なぜなら、その分野のことを知っていて損することがないからです。新しい分野に行ったとしても、自分の専門の知識が活かせるのではないかと思うからです。

第六にグローバルであるということです。英語が大事であるのは僕も実感していました。でも多くの人海外の学校にいたのが驚きでした。今まで僕は国内（関西）にしか目を向けていなかったのですが、もっと視野を広げ、関東、外国の学校に行くのも悪くはないと思いました。もっと驚いたことがあります。プログラミング言語がグローバル語になるということです。科学が共通語と考える人がいるということは知っていますが、まさかプログラミングで世界の距離が狭めることができるのなんて考えもしなかったです。

この研修で東京にいるOBの皆さんに出会えたことで、僕の悩みを解決しました。僕の人生の方向性を決めてくださった、大きな経験になりました。ありがとうございました。

79期 西尾恒輝



僕は、自分が将来どんな大学に入りたいのか、どんな事をしたいのかが全然わからず、それを探するのに良いきっかけになればと思い東京研修に参加させていただきました。

初日の大学見学では、OBの先輩方にその学校のことや大学ならではの特徴、また自分がまだよく知らない学部のことや先輩の六甲生時代の話など僕たちがどんどん質問することに対して丁寧に答えていただき、時には冗談も交えて僕たちが理解できるようかつ楽しんで学べるようにお話してくださいました。以前思っていた大学のイメージと比べ実際はもっと楽しそうなことに驚き、また、早く大学生になりたいという気持ちがより強くなりました。

東京での初めての夕食は52期を中心とされる先輩方が僕たちのために歓迎会を開いてくださいました。僕自身、最初はとても緊張していて会話することすら難しいのではないかと感じていました。けれど、いざ行ってみると面白い先輩ばかりで気付けばすっかりと場の空気が緊張から和やかなものになっていました。ここでの時間が、一番緊張が解けて心から笑えていたのではないかと思います。

二日目、三日目の企業見学では、OBの先輩方が勤めていらっしゃる企業にお邪魔させていただき、そこで何のお仕事をされているのかを学ばせてもらいました。実際に働かされている場所に入らせてもらえて、どんな風にお仕事をなさっているのかを自分の目で見ることができました。質問の時間も設けてくださり、各自気になったことを質問し、時間いっぱいまでこたえていただきました。

東京研修に行って、今まで自分が全然知らなかったことや考えもしなかったことを知ることができ、新しい世界を知ることが出来たような気がします。また友達や先輩たちと過ごす時間もとても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

最後に忙しい中僕たちのために時間を作ってください、歓迎会などの準備をしてくださったOBの先輩方、引率して下さった森本先生に心からお礼を言いたいです。



エンジンの回転方向は、「アメリカ製は反時計回り」、「ヨーロッパ製は時計回り」に動きます。





僕は今回の東京研修の間、沢山考えることができました。訪問先ごとに色々考えることがあり、濃い3日間でした。

一日目の大学見学では東大の五百旗頭教授の話が最も印象に残っています。東大に関するうんちくをいくつも語ってくれましたし、何より学者ということもあってか論理的な説明でとてもわかりやすかったです。どこの訪問先でも共通していましたが、六甲時代の出会いは必ず将来役に立つそうです。また、中間体操や便番などの伝統も、やっていてよかったとおっしゃる先輩がたくさんいらっしゃいました。また、確かに在学中はなぜこんなことをするのか疑問だったが卒業して一回離れてみるとその良さというものがだんだんわかるとおっしゃっていました。

ほかにも、慶応義塾大学と上智大学にも行きました。慶応はとにかく人が多く、気を抜けば人の波に埋もれてしまいそうでした。校舎は比較的新しい建物と、少し古い建物が混在していました。食堂で食べたかき揚げうどんは、学食というのにもあってコスパもよく、おいしかったです。75期の戸塚先輩にも会いました。

上智大学の印象は、ビル群、でした。1号館といういかにも歴史的建造物のような建物を除くと、とても現代的で高いビルがいくつも立ち並んでいて、こちらも人の量が普段とは段違いで、新鮮でした。ちなみに上智大学の図書館には蔵書が110万冊所蔵されているそうです。六甲の学習センターが2,3万冊なのを考えるとものすごい量です。

僕は当初、国公立大学のみを考えていたので、私立大学はほとんど視野に入れることがありませんでした。しかし実際に見てみると、それぞれの大学に違った魅力があって、様々な大学を見てみるべきだと痛感しました。

一日目夜のレセプションでは、主に52期の先輩方たちが歓迎会を催して頂きました。中高時代の同級生が大人になっても変わらず仲良くしているところに、先輩たちの語る六甲の魅力が垣間見えた気がしました。

二日目は、住友商事、西村あさひ法律事務所、FINOLABに行きました。住友商事では、六甲OBの先輩が何人もいらっしゃいました。僕は当初文系志望だったので、この日が一番気になる研修がたくさんありましたが、そもそも総合商社というものがどんな事業をしているかよくわかっていませんでした。住友商事では、時代の流れに合わせて、いろいろな事業を展開しているそうです。長く続く伝統の看板と、顧客からの信頼を背負いながらも、時代の急速な変化に対応する、少し六甲に似た部分を感じさせる会社でした。

僕は正直弁護士などの法曹は将来の視野に入れていませんでした。一度弁護士になってしまうと、弁護士は日本法を扱う専門家なので、グローバルな仕事をしたいと思っていた僕は魅力を感じませんでした。しかし実際は一口に弁護士といってもドラマで出てくるような刑事事件を扱う弁護士だけではないことがわかりました。西村あさひ法律事務所では、41期の藤本先輩にお話していただきましたが、僕が想像していた弁護士とは全く異なる仕事をしていました。西村あさひ法律事務所には約600人の弁護士が所属していますが、それぞれで自分の得意とする分野があり、その案件を扱い続けることによってさらに専門的な知識を身に付けていくそうです。裁判所で弁論をしているイメージしかなかった僕にとってとても新鮮で、興味深かったです。

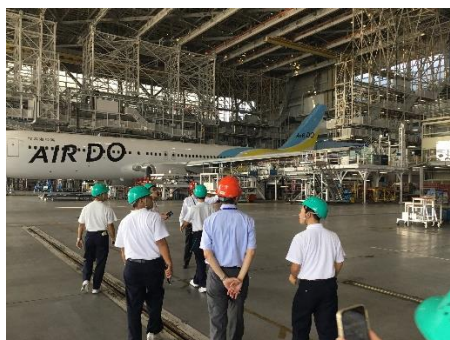
FINOLAB は、最初は名前も知りませんでしたが、Fintech(Finance 金融+Technology 技術)にかかわるスタートアップ企業を支援している法人です。スタートアップ企業は、ベンチャー企業とも言い換えられますが、起業家が起業した会社のことです。僕は当初、スタートアップ企業やベンチャー企業に対して、ごく一部の天才のような人達がやっていて、事業に失敗すると収入がなくなる、といった不安定でフラフラしているイメージがありました。しかし、実際にはやりたいことのアイディアを持った様々な分野の人が集まってお互い助け合いながら事業を成功させようと奮闘している現場で、そのようなこともあってか、皆さんいきいきと働いていました。住友商事とはある意味正反対の立ち位置にいて、小規模だけど、機転が利くという長所を持っていました。

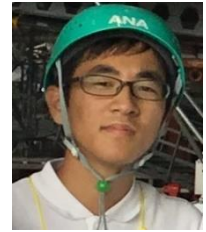
2日目の夜は、日本興業倶楽部でレセプションがありました。この日は50期の川原先輩が司会をしてくださり、13期の三宅先輩まで様々な年齢層のOBの先輩方が参加してくださいました。やはりここでも、OBの方々の六甲に対するこだわりの強さを実感しました。ちなみに、三宅先輩がもってきてくださった13期の卒業アルバムに音楽部の集合写真があったのですが、めちゃめちゃ人数が多くてびっくりしました。改めて六甲が受け継いできた伝統の多さを実感できました。

三日目は、明治安田生命に伺った後、羽田空港にある、ANAの整備庫に伺いました。明治安田生命では、企業法務について主に話を聞かせてもらいました。また、あさひ法律事務所易先輩も来ていただき、いわゆる僕のイメージするような法廷に立つ弁護士のことについて話を聞かせてもらいました。ここでも、普段通り暮らしているだけでは絶対に知りえなかったいろいろな知識を教えていただき、ためになりました。

最後に伺ったANAの整備庫は、最初ががつつり理系の人が集まる空間だとしてっきり思い込んでいました。で、飛行機の整備庫というのもあって、どちらかというとな研修というより遠足のような感じで伺いました。しかし、ANAも一つの企業である以上、当然会社としての様々な仕事をこなす人が必要です。整備士さんは確かに理系の技術系統の人がほとんどですが、文系の人も人数としては同じくらいいると知りました。僕は個人的に旅をするのが好きで、一人だったり、友達や家族とよく旅行に行ったりしますが、そういった意味で飛行機や鉄道などの人を運ぶことにかかわる仕事にも少し興味がありました。そういうこともあって、おそらく自分からは気になって訪れることのなかった場所ですが、研修で行くことができ、自分に興味がある分野が発見できたので、とてもよかったです。

最後に、まず出発前から聞いていましたが、やはり東京で活躍している六甲OBの方々は多くいて、そして、六甲からの研修を引き受けてくださるOBの方がたくさんいることに、六甲の良さを感じました。そして、自分の興味があることに絞って調べ物をしたりすることではおそらく得られなかったような経験、例えば端から興味のなかった分野も今回の研修によって、実は自分に向いているかもしれないと感じることができました。これから志望校を決めたり、学部決めがあったり、最終的にはどのように生きていくのか決めなければいけません。この3日間はこれからの人生においてもとても助けとなる存在になるのではないかと思います。





0, はじめに

今回、第五回東京研修に参加して、今までは名前しか知らなかった大学や企業に行くことができ、それらに対する意識が大きく変わりました。本当に内容が濃く、価値のある三日間でした。これからその三日間について、一日ずつ分けて書いていきます。

1, 一日目

約二時間新幹線に乗り、新横浜駅に到着しました。神戸とは比べ物にならないほど混んでいる電車に乗って、東京に着いたのだと実感しました。まず、慶応大学に行き、先輩と学食を食べた後、学校内を見学させてもらいました。実際に見学して、大学というものの大きさを初めて思い知りました。特に大きな売店が敷地内にあったのと、自動販売機に慶応の水が売っていたのが印象に残りました。

次に行った東大では、東京大学の教授である先輩に大学を案内してもらいました。質疑応答の時間があり、そこで僕達に、自分の人生経験と教訓を語ってくれました。その話は、僕たちのこれからの人生で役立つ、素晴らしいものでした。

そして上智大学に行き、先輩に大学を案内してもらった後、歓迎会を開いていただきました。参加者が全員六甲出身だったので、とても話しやすい雰囲気でした。そこでオードブルを食べながらの質疑応答があって、質問に対し、自分の人生経験を踏まえて回答してくれました。時にはユーモアのある回答をしてくれ、本当に忘れることの出来ない様な歓迎会でした。その後、ホテルでチェックインして、就寝しました。ホテルの中でも、全く知らない外国人と仲良くなる、というあんまりないような経験をする事ができました。

2, 二日目

二日目は一日目とは変わり、企業訪問がメインでした。

最初に訪れた住友商事で、僕は「面接に受かるのはどんな人ですか？」という、気になったけど普通は絶対聞けない様な質問をすることができました。その回答は「印象が第一で学歴は二の次」というもので、実際に面接をしている先輩が答えてくれたので説得力がとてもありました。また、そこで社食を食べたのですが、とても種類が多く、味もとても良かったので驚きました。

次に訪れた西村あさひ法律事務所では、弁護士の先輩から話を聞くことができ、今まで僕は今まで弁護士にはあまり興味がありませんでしたが、興味深い話が多く、弁護士の道にも興味がわきました。

最後に訪れた FINOLAB では、起業された先輩の話を聞くことができました。僕は、起業して失敗した時のリスクしか考えてなくて、起業に対してマイナスのイメージを持っていましたが、起業に成功した先輩の具体的な体験談を聞いて、起業へのイメージがガラリと変わりました。将来の選択肢が増えた、そんな気がした二日目でした。

レセプションでは、伯友会の方が豪華なバイキングを用意してくれて、一日目の歓迎会と同じように、話しやすい雰囲気で質疑応答をすることができました。面白かったり、時には真面目だったりして、とても心に残るものでした。夜の自由時間には友達と秋葉原に行き、とても楽しい経験ができました。

3, 三日目

最終日、まず訪れた明治安田生命では、現役で働いている先輩に会社の環境などを聞くことができました。「英語を喋れたほうが断然いい」と聞いて、今は使わなくても、いつか使うのだから勉強しなければならないというのを改めて感じました。会社での体験談もとても印象に残りました。

最後に訪れた ANA 整備センターでは先輩の話聞き、質疑応答してもらった後に、実際に間近で飛行機を見せてもらいました。先輩の、ANA や自分の人生の話もとても興味深いもので、さらに、実際に使われている飛行機の整備を見学することができ、普通は絶対ないような、貴重な時間を過ごせました。内容がとても濃く、充実した二泊三日でした。

4、最後に

僕はこの東京研修を終えて、「来て本当によかった。」、そう心から思いました。それほどまでに素晴らしい旅でした。先生が、「こんな企画、やりたいと思っても先輩が協力してくれないとできない。協力してくれる先輩がいる君たちは恵まれているんだ」、と言っていました。僕はこの東京研修で、大学、企業などの、今まではあまりよく知っていなかった場所のことがはっきりとわかるようになりました。これからの人生で、この経験から得たものはきっと役に立つと思います。

最後に、引率をしてくださった森本先生、東京研修を企画してくださった方々、そして僕たちのために貴重な時間を割いてくださった先輩方、本当にありがとうございました。





今回、僕が東京研修に参加させて頂く機会を与えられたことに、心から感謝したいと思う。

初日は慶應義塾大学、東京大学、上智大学の3大学を訪問。

東京大学では、門をくぐり学内に入った瞬間、空気感が違い、まるで過去から時間の流れが止まっているかのような錯覚を覚え、様々な歴史を刻んできた場所だということを感じた。

また対照的に、上智大学は時代の最先端を突き進むような斬新さと、学舎の佇まいもありモダンで都会的な華やかさを兼ね備え、世界の様々な文化が入り混じった空気が漂っていた。

慶應義塾大学は他の2大学とはまた違う、現代的でありつつも素朴で親しみやすい雰囲気だった。

上智大学学内で設けていただいた夕食を兼ねた歓迎会では、先輩方と初めてお会いしたとは思えないほど親しく学校のことなどについてお話しさせていただき、とても楽しく有意義で、濃密な時間を過ごさせていただいた。まだ1日しかたっていないのかと思うほど刺激的な1日で、期待に胸を高鳴らせながら眠りについた。

2日目は住友商事、西村あさひ法律事務所、FINOLABの3社を訪問。

住友商事ではまずビルの大きさと入館証を渡されたことに驚き、大企業に足を踏み入れる大きな緊張を感じた。企業説明では会社の事業、歴史、理念などのお話を丁寧に伺った。特に創業時、創業者が残した商人の心得を説いた「文殊院旨意書」を現在も「住友の事業精神」として大切にされていること、私利を追わず、公の利益を考える姿勢に感動した。

六甲OBの先輩が大学時代に専攻していた分野を生かして現在仕事をされている姿はとても格好良く憧れを感じた。昼食をいただいた社員食堂はとても豪華で、社員食堂とは思えない近未来的な食堂だった。

西村あさひ法律事務所では、主に企業法務の現状についてお話を伺い、普段なかなか伺うことのできない貴重なお話を多く聞くことができた。実際に現場のお話を伺って想像以上に複雑で難しく、また大きな責任が伴う大変な仕事なのだと深く感じ入った。将来、法律に関わる仕事に就きたいと思っている自分としては、法律に関する知識だけでなく、豊かな人間力が必要な仕事だということを感じ、客観的に見た自分が果たしてそのような資質を備えているのかと自分を改めて見つめなおす大変良い機会にもなった。

三菱地所、電通、電通国際情報サービスが共同運営するFINOLABは、異業種の方々が共同で一つのミッションを達成するためのサポートをされている。企業の枠を超えて新しいプロジェクトを生み出す柔軟な発想力が持つ大きな可能性を教えていただいた。先の西村あさひ法律事務所を感じた豊かな人間力の形成のため、柔軟な発想力もまた必要不可欠なのではないかと感じた。

伯友会のOBの方々と夕食を兼ねたレセプションでは、13期の先輩から現役大学生の76期の先輩まで、幅広い年代の先輩方に六甲の今昔エピソードを伺ったり、質疑応答では様々なアドバイスをいただいたり、実体験を交えた貴重なお話を伺い、前日の歓迎会とは一味違った貴重な時間を過ごさせていただいた。

3日目は明治安田生命、ANAの2社を訪問。

明治安田生命では、事業内容と、企業としての社会貢献活動等のお話を伺った。企業内弁護士として勤務されている52期のOBの方に担当していただき、企業内弁護士としての貴重なお話を伺った。前日

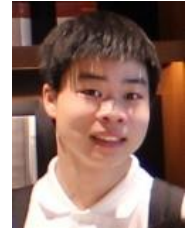
に企業弁護という外からのアプローチについて詳しく伺ったお話とは違い、企業内弁護士という立場からのアプローチについて詳しくお話を伺って、多岐にわたる対応力の重要性を教えていただき、今後の自分の生活において意識していかなければならないと痛感した。ここでも法学に関する仕事の方にお会いできたことをとてもありがたく思った。明治安田生命に勤務されているOBの方々が僕たちの訪問を知って、自費で昼食のお弁当を用意してくださり、先輩方の後輩を思う気持ちに触れ、とてもうれしかった。

最後の訪問先となるANAでは、企業説明を受け、整備工場の見学をさせていただいた。整備工場では、工場の大きさや間近で見た飛行機の大きさに圧倒されたと同時に、そこで働く方々の緊張感を感じた。人の命に関わる仕事をされている真剣さ、凛とした姿を目の当たりにし、背筋が伸びる思いがした。また、担当してくださった51期の先輩との質疑応答でANAの法務部のお話も伺えた。理系方の割合が多いような印象があるが、法務部のような文系の方も命に関わる仕事を支えられていた。

2泊3日という限られた時間の中で受けた大きな刺激と、帰路についてもなかなか冷めない興奮というものを初めて経験し、東京研修に参加させていただく機会を与えられた意味を考え、自分の人生においてどれだけ大きな経験になったかと振り返った時、自分の中で何かが動き出したことを感じた。「そこまで？」と思われるかもしれないが、僕にとっては「そこまで」と思える東京研修だった。



工具の管理は安全確保のため徹底している。個人用工具箱があり、鍵がかけられていた。



正直なことを言うと、僕は、最初東京研修の募集があった時、「そんなものがあるんだ…」という、軽い気持ちで受け流していましたが、ふと自分の中学の三年間を振り返ってみて、先生方や親から委員に立候補するように再三勧められたにもかかわらず、委員に一度も立候補しようとしなかったり、あまり積極的に動いていなかったと感じ、高校からは少し気持ちを切り替えてみようと思い、参加者に立候補しました。参加者が抽選で選ばれるということを知ったときには、選ばれるかどうか不安で、結果が発表されるまで落ち着かない日々を過ごしていたので、結果が分かった時にはホッとしました。

東京研修で一番印象に残っているのは、一日目の東大の五百箇頭教授の講義でした。この研修では、先輩方が就職なさっている企業も見に行きましたが、やはり大学は直近の未来のことなので、大学における研究については最も関心がありました。五百箇頭教授は、日本政治外交史の研究をなさっている方で、自分の研究においては、「実証」と「総合」が重要であるとおっしゃっていました。「実証」とは、どの資料が正しいことをいっているかという資料批判から、資料の矛盾の構造を解き明かす実証主義につなげていくことで、通説について論ずる、「総合」という作業がなせるのだとおっしゃっていました。また、「総合」を行う上では、資料をよんで、違和感を発見することが大切で、それをするにあたって、中高生時代の勉強がとても重要だともいわれました。それまでは、大学の研究は小難しいものだと思っていましたが、どの教授の授業を受けるかを自分できめ、自分が「違和感」を持ったことにかんして、自分流に研究していくのが大学であると知ったので、大学での生活を楽しむか否かは自分次第だと思いました。また、自分で「違和感を発見するためにも、いま行っている勉強をしっかりこなしていこう」というモチベーションも生まれました。

講義を聴くとき、ぼくは、質問をしようとしても、する直前になって、「本当にこんなこと聞いていいのだろうか」など、変な不安を感じているうちに、自分が考えていた内容を他人に先にいわれてしまったりして、自分の優柔不断さが原因で質問に機会を失ってしまいましたが、最後に滑り込みで思い切って質問をすることができました。今までの自分であれば、最後まで臆したままで、何も行動できなかったかもしれないので、少し成長できた気がして、嬉しかったです。

また、今回の研修では、六甲生のつながりの強さも感じました。特に、二日目の日本工業倶楽部でのレセプションでは、OBの方々が積極的に話しかけてくださったおかげで、僕も楽に話をすることができたので、安心しました。あのような場を設けることができたのは、それだけ偉大な先輩方がいるからであって、自分たちは恵まれているということに認識しなければならぬと思いました。将来もし自分が東京で働いているならば、時間を割いてでもこんな風の後輩と交流してみたいと思いました。

会社訪問の際、あるOBの方から、六甲時代の親友とは今でも親しく付き合っている、という話を聞いて、六甲の親友との仲は、大人になっても続く深いものであるということに、感嘆させられました。僕は、そういう友人は現時点で幾人かいますが、これからもっと増やしていきたいと思います。

今回は、六甲生の繋がりや深さを実感し、大学や将来就職する企業がどのようなものであるかを知ることができ、とても有意義な研修であったと思うので、よかったです。最近塾の全国模試を受けましたが、結果はどれも納得のいくものではなく、まだ自分が目標とするものには程遠い状態ですが、それでも未来を見据えて、今自分の為すべきことを為し、少しずつでもそれに向かって研鑽を積みつつ近づいていきたいです。



東京工業倶楽部を出て、夜の東京駅（高1西尾君撮影）